

# 結成一五周年、苦闘の歴史

喜劇映画研究会代表 新野 敏也

えっ、そんなのあったの？という会のアラノと申します。はじめまして。樹齢百余

年の映画史の幹に四分の一ほど寄生して、今なお胞子を放つマタンゴ「喜劇映画研究会」の活動を誌面占拠で吐露します。ゾットとする内容ですので温かい心でお読みください。

まずは我が会の成り立ちです。学生時代の原健太郎さんも所属していた喜劇研究会という非営利のアマチュアお笑い研究団体がありました。ここは落語、漫才、演劇や映画、文学、漫画までの知覚として笑う行為に繋がる全てを研究対象としたスゴイ会でした。この中で最年少メンバーだった劇作家ケラリーノ・サンドロヴィッチ（当時は中学3年の小林一三）の趣味と小遣い稼ぎを兼ねて行っていた自主上映が喜劇映画研究会となります。最初の興行が76とされるので、二一世紀でピタリ二五周年ですが、私の参画した頃から現在の喜劇映画研究会となりますので、実は看板だけが風雪に耐えてきたというのが本当でしょう。

会の運営方針としては当初から変わらず、非営利のサークル活動を貫いております。いうなれば我が会と原さんの東京コメディ倶楽部は喜劇研究会の嫡流で、同じDNAから性格の異なる兄弟に育ったとも考えら

れます。

さて、ではエリートの兄（原さん）の自宅に土足踏破を試みる不逞の弟（ウチ）の素行とは？

84にケラリーノ氏より会を奪取した時までは、マニア垂涎の幻作品を自主上映して、簡単なパンフレットで作品解説等を行っておりました。この頃の常連のお客様にはスミマセン、この活動があまりにオタクキーなので、89にスタッフごとリストラクチャリング。ファクション性で見る若年層の女性客にも「これぞ喜劇」と知って貰う店内改装を施しました。この時に断行したのが、92に刊行の知る人ぞ知る狂気の二冊「サイレント・コメディ全史」です。

出版のテーマは 会のコンテンツと地歩は絶対的なモノに 未整理の古典情報を完結させて 一過性のリバイバル人気とならない情報を後世に残す事で世界最大級の資料編纂を、と暴挙に出ました。

敢えて無声映画を選定した理由は 映像の技術と演出の基本にあたる「喜劇」は映画史を縦貫する唯一のジャンルとして映画発明当初から存在する 今や絶滅した表現（正當な継承者がいない） 時代的に特定できる（映画発明からトーキー普及までに限定可能）となります。これに第一次世

界大戦までのヨーロッパ勃興と、世界恐慌（トーキー普及）までのアメリカ主導の歴史的区分で技術革新やイデオロギー、民族紛争、新興産業（映画）の利権争いに戯弄されながらも地球規模で全映画会社が競作した史実 喜劇人の経歴を盛り込みました。

回顧趣味に耽溺しない様に表紙もピンクで金箔文字にコメディエンスの肖像画。お陰で製造原価が定価より高い怪作に仕上がりました！

この書籍発刊を機に我が会は一応、古典喜劇中興の祖という評価を頂戴して、劇場の傍らで缶ジュースを飲んでいた筈のオーディエンスから天上の方々より直接お声を掛けて頂く立場となりました。（今の天上から淀長先生に呼ばれるのは勘弁願いたいですが）

現在も資料調査はいずれの改訂に向けて継続しておりますが、我が会は多士落々（悪く言えば魑魅魍魎狐狸野干の類い）なメンバーによって、古典や喜劇に固執しない、活動（運動）の方法に重心を傾けたサークルに変わりました。但し、研究資料として集めた映画（一応は欧米の喜劇を体系的に網羅している）の管理体制から、会は古典専門の会社組織と世間では思われているようです…。

一介の社会人が本業の間隙を縫って調査や作品復刻を敢行し、給金と体力をひたすら消耗する、ピュリタン教徒みたいな生活状況です。まあ、ここまできたら二五周年と言わず、千年祭を開催するまで頑張りますが。

と、訳のわからない独り言のまま最新活動の案内までさせて頂いています。

『夢の森にて2001』

二一世紀最初の一月二十日（土）に東京はお茶ノ水のアテネ・フランセにて、無声映画と生演奏のコラボレーションを行います。これは伴奏にあらず、のパフォーマンスで、市川崑監督作品やTV番組の作曲で知られる谷川賢作氏（父親で詩人の谷川俊太郎氏との朗読コンサートで全国を巡演中）が最強の楽団を率いてドタバタ喜劇に挑みます。と、言っても谷川氏が道化を演じるのではありませんが。無声喜劇固有の律動に、ミュージシャンの技量、機動力、瞬発力がインプロヴィゼーションの偶発的緊迫感をブチ込むライブです。古典映画が苦手、または古典が初見の方も絶対に楽しめる！と自負しております。詳しい問い合わせ先は

アテネ・フランセ文化センター

03(3291)4339

日祭休館13:00-20:00です。

尚、前売りはチケットぴあ、ファミリーマート(ファミネット)で発売中です。

3月には調布市の映画祭で、喜劇映画の歴史を特別講演する予定もあります。我が会ならではの映像資料を引っ下げて、会場が怒りの炎と荒寥感漂う爆心地みたいにならない様に努力します！

と、世紀末にお騒がせ致しましたが、こんな会の今後をほんのちよっぴり見続けて頂ければ嬉しい限りです。宜しく願います！